

**飛躍への挑戦！**  
**高知県産業振興計画**

変わろう・変えよう・産業と暮らし

## 第3期高知県産業振興計画 **ver. 2**

～ みんなが主役 高知の元気発進プロジェクト ～

《地域アクションプラン》(案)  
安芸地域抜粋版

平成 29 年 2 月

高 知 県



## 1 安芸地域

### (1) 地域の産業を取り巻く状況

安芸地域は、高知県の東部に位置し、海・山・川の恵まれた自然と温暖な気候を活かし、古くから第一次産業を中心に営んできましたが、年々人口が減少し、昭和30年代半ばには10万人余であったものが、平成27年の国勢調査における当地域の人口は48,350人となり、前回（平成22年）と比較して9.7%減少するという状況になっています。

こうした状況に歯止めをかけるため、各市町村においては、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、産業振興や地産外商、移住の促進等に取り組んでいます。

産業分野別の現状として、農業では、地域の特性に応じた多様な農業が展開されており、特に平野部はナスを中心とするハウス園芸地帯として、中山間地域は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。

ユズについては、平成24年度に始まった日本初のヨーロッパへの青果輸出が、毎年継続して行われており、ヨーロッパでの知名度が徐々に高まっています。

また、施設野菜については、天敵昆虫を活用した減農薬栽培に全国に先駆けて取り組み、消費地からも安全・安心の野菜産地として高い評価を受けています。

林業では、「森の工場」の整備等により、間伐施業の集約化・機械化を進め、生産性の向上を図るとともに、皆伐の推進を図り、原木生産の拡大に取り組んでいます。さらに、木質ペレット燃料を生産する工場の整備や木質バイオマスボイラーの導入により、未利用材等の活用も進んでいます。

また、土佐備長炭が、室戸市、東洋町を中心に生産され、県内生産量の93%を占めており、若い後継者の参入や生産者の組織化も進んでいます。

水産業では、国際的な漁獲規制や資源の減少、魚価の低迷、燃油価格の高止まりによる漁業経費の増大など、取り巻く環境は厳しさを増していますが、キンメダイの消費拡大を目指し、関西市場を中心に販売促進などに取り組んだ結果、高級食材としての認知度が定着し、魚価の向上につながりました。また、地域の基幹漁業の一つである定置網漁業の漁獲物等の販売促進やイサキ、マダイ等の地域の主要魚種への高鮮度処理による付加価値の向上、移住促進策と連携した就業希望者の掘り起こしや研修制度の充実等による担い手の育成・確保の取組を進めています。

商工業では、地域資源である海洋深層水やユズ等を活用した商品などの製造に加え、農工商連携や6次産業化などにより新商品の開発を進めています。奈半利町では、地元の農産物や魚の加工販売を行う2つの施設（「奈半利のおかって」、「加領郷魚舎」）を整備する等、地産外商に向けた取組が進んでいます。

観光では、圏内には自然や歴史、文化遺産などの多彩な魅力をもった観光資源があり、多くの観光客が訪れています。

平成27年度に開催された東部地域博覧会を契機として、新たな地域資源の掘り起こしや観光プログラムの造成が行われ、安芸地域の魅力度が向上したことから、さらなる観光資源の磨き上げや情報発信を行うため「高知県東部観光協議会」を設置し、9市町村が連携して広域観光の推進に取り組んでいます。

また、「志国高知 幕末維新博」開催に伴う、5つの地域会場（室戸世界ジオパークセンター、中岡慎太郎館、岡御殿、安田まちなみ交流館・和、安芸市立歴史民俗資料館）を中

心に観光資源の磨き上げや周遊コースづくりが進んでいます。

## (2) 地域アクションプランの概要

当地域では、各市町村のまち・ひと・しごと創生総合戦略の取組と歩調を合わせて、第一次産業の振興に向けた生産・加工体制等の充実・強化や、販路の拡大の取組を継続するとともに、地域の一次産品等を活用した加工品づくりや、道の駅・直販所における機能の強化にも引き続き取り組めます。

農業分野では、ユズの青果出荷の拡大と品質の向上のための新植、改植を進めていくとともに、ユズ果汁等の安定供給と販路拡大を図ります。

林業分野では、高級品として紀州産と並び称される土佐備長炭の生産量の拡大に引き続き取り組むとともに、魚梁瀬スギを代表とする地域の特色ある木材を活用し、消費者ニーズに合った木製品の開発及び販売強化を進めていきます。

水産業分野では、地域の基幹産業である定置網漁業について、漁獲物の高鮮度処理による付加価値の向上と販路の拡大を進め、漁業生産と雇用の安定を図ります。また、地元水産物を活用した加工品の製造・販売などに引き続き取り組むとともに、加工施設の衛生管理体制の高度化を進めます。

商工業分野では、安芸市において商工会議所や行政が連携し、本町商店街を中心とした地域活性化に新たに取り組めます。

また、有害鳥獣（イノシシ、シカなど）や天日塩、キンメダイ、イチジクなどの地域資源を活用した加工品の開発及び販路拡大に取り組むほか、その他道の駅や農産物直販所などにおいても、情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取組を進めます。

観光分野では、東部地域博覧会で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継ぎ、同博覧会の成果を更に拡大させるために設立された(一社)高知県東部観光協議会を中心として、教育旅行の受入体制の整備や拡大、滞在型観光の推進により、交流人口の拡大に取り組めます。

また、「志国高知 幕末維新博」を契機として、地域会場を中心とした周遊コースを整備するとともに、持続的な観光振興の基盤の確立に向けた取組を進めます。

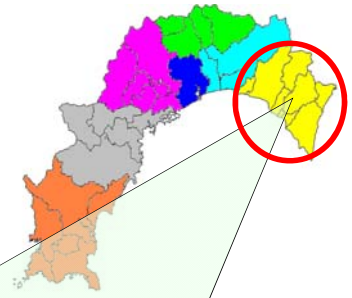
(3) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
ユズの加工仕向量	H26 : 4,489 t	H31 : 5,000 t
土佐備長炭の出荷量	H26 : 1,076 t	H31 : 1,580 t
圏内主要施設訪問者数 <注1>	H27 : 2,401,821人	H31 : 2,606,000人
圏内宿泊者数 ※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ	H27 : 138,229人	H31 : 150,000人

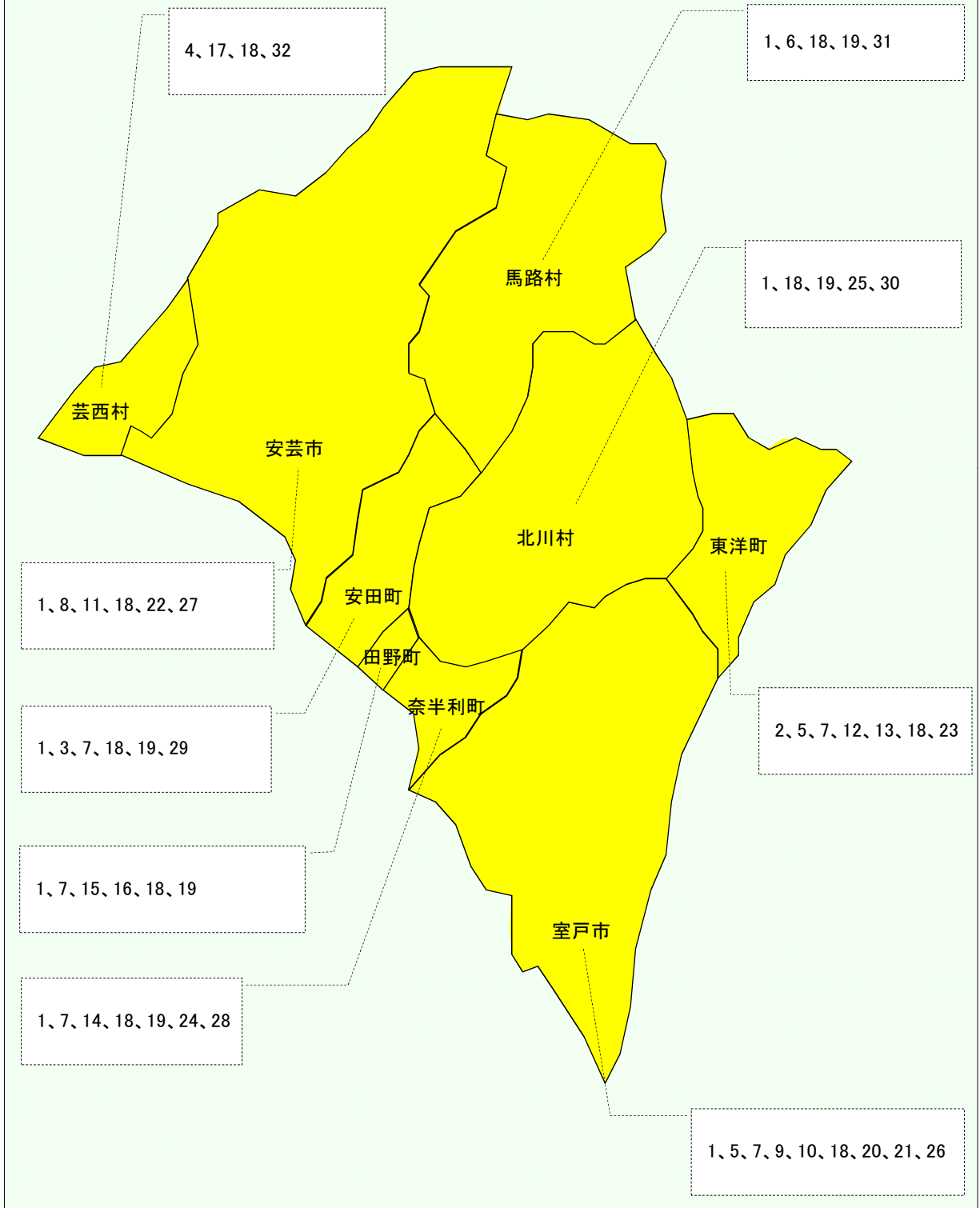
注1 : 室戸世界ジオパークセンター、キラメッセ室戸（鯨館）、北川村「モネの庭」マルモッタン、中岡慎太郎館、安芸市立書道美術館、安芸市歴史民俗資料館、内原野陶芸館、安芸こころざし社中等安芸地域9市町村内の観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数

(4) 具体的な取組

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
1	ユズを中心とした中山間振興	●	●		●	●	●	●	●	
2	ポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興			●						
3	やすだ資源を活かした6次産業化事業の推進						●			
4	白下糖の生産拡大と新商品の開発									●
5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
6	林業加工品の販売の促進								●	
7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
8	安芸市のシラス漁業者所得の向上		●							
9	海洋深層水による地域産業の推進	●								
10	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大	●								
11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化		●							
12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
13	有害鳥獣等を活用した商品開発と販路開拓			●						
14	地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進				●					
15	完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用					●				
16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取組					●				
17	地場産品直販所「かっぱ市」による地域活性化									●
18	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19	魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大				●	●	●	●	●	
20	世界ジオパーク認証を活かした観光の振興	●								
21	「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大	●								
22	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進		●							
23	東洋町における体験型・滞在型観光の推進			●						
24	藤村製絲を活用した観光振興				●					
25	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大							●		
26	旧椎名小学校を活用した地域振興	●								
27	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり		●							
28	奈半利ブランドの確立と販路の拡大				●					
29	安田中山地区の活性化プロジェクト						●			
30	北川村中部地区の活性化プロジェクト							●		
31	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト								●	
32	集落活動センター「げいせい」を拠点とした“小さくてももっと元気で輝くむら”づくり									●



### 【安芸地域】



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>1 ユズを中心とした中山間振興</p> <p>《室戸市、安芸市、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p>	<p>日本一のユズ産地として、生産性の向上や品質の低下の防止とともに、ユズ果汁等の販路拡大に取り組み、ユズ販売額の向上を図る。</p>	<p>・JA土佐あき ・JA馬路村</p>	<p>アクションプランの取組開始：H21 [JA土佐あき] ・新植、改植の推進への取組(H21～28) ◆県選抜システムを活用した母樹園が設置された(H22)。 ◆母樹園の優良系統樹から穂木を採取し、苗木業者での育苗が開始された(H27)。 ・果汁の販売対策として計画的な施設整備(北川村：H21：搾汁施設、H24：果汁殺菌設備)、JA内に販売対策チームの設立(H24) ◆EU向けに青果輸出に取り組み始めた(H24：3t、H25：3t、H26：3t、H27：4t)。 ◆H24から実施している消費者との交流イベント(収穫祭、料理コンテスト)により、ユズのPRに繋がっている。</p> <p>[JA馬路村] ・ユズ茶(H21)、化粧品(H22)及びアルミ缶対応ドリンク充填ライン(H26)の加工施設の導入 ◆加工品の販売実績が増加した。 ◆販売拡大に向けて新商品開発が進み、販売に至った(H24：シャーベット2種、ボン酢1種、H25：化粧品3種、ボン酢1種、H26：化粧品2種、調味料3種、H27：化粧品1種、清涼飲料水2種)。 ◆H18から実施している消費者との交流イベント(ゆずはじまる祭)により、ユズ及びユズ関連商品のPRに繋がっている。</p>	<p>[JA土佐あき] ・青果出荷へのシフト ・隔年結果及び品質低下対策 ・母樹園を活用した優良系統の普及</p> <p>[JA馬路村] ・加工施設の活用による安定した加工品販売及び生産者単価の維持向上</p>	<p>◆新植、改植の推進 [JA土佐あき]</p> <p>◆ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p>
<p>2 ポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興</p> <p>《東洋町》</p>	<p>東洋町の特産品であるポンカンを活用した加工品の開発をすすめるとともに、移住・定住の促進による後継者の確保に取り組むことにより地域振興を図る。</p>	<p>・ポンカン生産者 ・甲浦の果樹仲間 ・東洋町</p>	<p>アクションプランの取組開始：H24 ・ポンカンを活用した商品の開発(H22) ・ポンカンドリンクのチラシ作成(H24) ・関西方面での営業活動(H24～28) ◆業務用酒販や飲食店などの新規取引が成立し、既存商品の販路拡大は徐々に進んできた。 販売数 【H22】 1,807本 (ドリンク1,112、ドレッシング695) 【H23】 1,764本 (ドリンク1,239、ドレッシング525) 【H24】 2,602本 (ドリンク2,133、ドレッシング469) 【H25】 2,454本 (ドリンク2,122、ドレッシング332) 【H26】 3,584本 (ドリンク2,520、ドレッシング1,064)</p>	<p>・ポンカンを活用した新商品開発と販路拡大 ・後継者の確保</p>	<p>◆ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大</p> <p>◆後継者の確保</p>



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>新植、改植の推進(青果の生産拡大と品質向上、計画的販売の強化)</p> <p>検討会や勉強会の開催による基本技術の徹底</p> <p>産地内の母樹を活用した苗木確保</p> <p>産地内の母樹苗木を活用した計画的な新植・改植の推進</p> <p>ユズを活用した中山間振興策の検討</p>					<p>青果出荷受入量(1月～12月)</p> <p>(H22:297t)</p> <p>(H23:370t)</p> <p>(H25:398t)</p> <p>(H26:449t)</p>	500t	
<p>ユズ果汁等の安定供給と積極的な販路開拓</p> <p>[JA土佐あき]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>栽培基本技術向上による加工用果皮の出荷拡大と隔年結果の是正による果汁の安定供給</li> <li>大手飲料メーカー等との契約による販売の安定化</li> <li>果汁一元化販売の取組による安定した果汁単価の維持</li> <li>ユズ協事業との連携、海外事務所、輸出コーディネーター等の活用による輸出販売の拡大(シンガポール、北米、EU等)</li> </ul> <p>[JA馬路村]</p> <p>各施設を活用した加工品生産、加工品開発及び販売拡大への取組</p> <p>加工施設の検討</p> <p>加工施設の整備</p>					<p>JA土佐あき</p> <p>加工仕向量(1月～12月)</p> <p>(H22:4,250t)</p> <p>(H26:4,489t)</p>	5,000t	
<p>加工施設の検討</p> <p>加工施設の整備</p>					<p>JA馬路村</p> <p>加工品販売額(1月～12月)</p> <p>(H21:21億円)</p> <p>(H26:32億円)</p>	36億円	
<p>ポンカン加工品の新商品開発と販路拡大</p> <p>新規加工グループの掘り起こし</p> <p>既存商品の磨き上げ</p> <p>新商品の検討</p> <p>試作品の作成</p> <p>新商品の販売</p> <p>販売促進活動</p>					<p>商品数</p> <p>(H22 2アイテム)</p> <p>(H26 2アイテム)</p> <p>既存商品の販売数(1月～12月)</p> <p>(H22:1,807本)</p> <p>(H26:3,584本)</p>	4アイテム(累計)	
<p>後継者の確保</p> <p>移住・定住の促進による後継者の確保</p> <p>新規就農者の支援</p>							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>地域資源を活かした6次産業化事業の推進</p> <p>戦略構想計画の策定</p> <p>加工に適した作物の選定</p> <p>地域資源を活かした新たな加工品の開発、市場調査、販路開拓</p> <p>加工施設整備</p> <p>原料増産に向けた取組</p> <p>起業家創出、企業誘致に向けた取組</p>					<p>起業家創出</p> <p>企業誘致</p>	<p>1社</p> <p>1企業</p>	
<p>「安田の白い夢」の販路の開拓</p> <p>大都市圏を中心とした営業活動の展開による販路の確保</p>							
<p>技術を継承する人材の育成</p> <p>人材の確保</p> <p>製造技術の習得、その他関連する研修等への参加</p>					<p>サトウキビ収穫量 (H26: 34t)</p>	<p>45t</p>	
<p>白下糖の生産量の拡大</p> <p>遊休農地の有効活用・新規生産者の確保によるサトウキビ作付面積の拡大</p> <p>サトウキビの買取り実施</p>							
<p>白下糖の品質向上</p> <p>栽培層に沿った栽培</p> <p>栽培層の磨き上げ等による収穫量の拡大</p>							
<p>白下糖の販路拡大</p> <p>テストマーケティング</p> <p>商品の磨き上げ</p> <p>商談会や展示会への出展</p>							
<p>新商品の開発</p> <p>商品検討・試作</p> <p>試作商品テストマーケティング</p> <p>試作商品磨き上げ・商品化</p>							
<p>体験メニューの磨き上げ</p> <p>体験メニューの実施</p> <p>検証 磨き上げ</p> <p>検証 磨き上げ</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
5 土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化 《室戸市、東洋町》	土佐備長炭の生産量の増大と後継者の育成を図ることで、産地としてのブランド力の向上を図る。	・室戸市木炭振興会 ・土佐備長炭室戸生産組合 ・土佐備長炭生産組合	アクションプランの取組開始：H21 [室戸市木炭振興会] ・組織化：H19設立 ・施設等整備（H21：研修窯2基、H22：研修窯1基） ・研修生の受入（H21：3人、H22：5人、H23：2人、H24：0人、H25：0人、H26：2人、H27：2人、H28：2人） ◆施設整備により、研修生の継続した受入につながっている。  [土佐備長炭生産組合] ・組織化：H21設立 ・施設等整備（H21：共同窯2基、H22：共同窯1基、保管庫1棟、H25：共同窯4基、フォークリフト1台） ◆施設整備により月産出荷能力（箱=12kg）が増加した。（H21：2,150箱、H22：3,425箱、H23：3,548箱、H24：3,670箱、H25：4,190箱、H26：3,630箱）  ・研修生の受入（H21：3人、H22：2人、H23：2人、H24：0人、H25：2人、H26：1人、H27：2人、H28：2人）  ・原木の一括購入と製品の一括出荷（H21～） ◆出荷量の拡大と品質の安定化につながっている。  ・末端利用者のニーズに対応して、製品規格を10種から19種へ拡大（H21～）  [土佐備長炭室戸生産組合] ・組織化：H28設立	・担い手の育成 ・生産施設等の整備 ・原木の確保 ・経営の強化と安定化 ・ブランド力の向上	◆従事者の拡大  ◆生産施設の整備  ◆カン類原木の活用  ◆大規模所有者からの原木調達  ◆組織力の強化  ◆新商品の開発  ◆生産拠点の拡大に向けた検討
6 林業加工品の販売の促進 《馬路村》	木材加工品の販売を促進し、事業体の雇用の確保と経営安定を図る。	・(株)エコアス馬路村 ・馬路林材加工協同組合 ・馬路村森林組合	[(株)エコアス馬路村] アクションプランの取組開始：H21 ・モナッカ新バグの商品化（H21） ・モナッカの塗装の改良（H24） ・新商品Kutu-beraの開発（H25） ・国内外の展示会への出展（H21～） ・HPのリニューアルによる直販の強化（H25～） ◆商品開発、展示会・商談会への出展やHPの改良により営業面は善戦している。  [馬路村森林組合] ・骨壺、子供用ベッドを新商品として開発（H22～） ・中期経営計画書の作成（H24～） ・丸棒削機1台、材乾燥機1基の導入（H25） ◆職員全員が経営者的な感覚で今後の事業展開や組織運営を考えるようになってきた。また、機械導入により製品品質が向上した。	[(株)エコアス馬路村] [馬路林材加工協同組合] ・顧客の確保  [馬路村森林組合] ・小径木の加工場であるため付加価値のある製品の製造が困難  [全体] ・村内の人口減少により従事者の確保が困難	◆営業力の強化 [(株)エコアス馬路村] [馬路林材加工協同組合]  ◆収益性の改善 [馬路村森林組合]  ◆担い手の確保

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
従事者の拡大		研修生の受入			出荷量 (H26: 1,076t)	1,580t
生産施設の整備		炭窯、保管庫等の設置			新規就労者数 (H24~27 11人)	26人(H28~31 累計)
カン類原木の活用		製炭技術の改良等			製炭窯設置 (H24~26 増設7基)	21基(H28~31 累計)
大規模所有者からの原木調達		原木林の共同購入等				
組織力の強化		未加入製炭者の組織化、生産者団体の事務局機能の強化等				
新商品の開発		ザソ白炭・黒炭の生産、広葉樹原木を活用した商品の生産				
生産拠点の拡大に向けた検討		安芸市等東部地域での生産拠点拡大に向けた検討				
営業力の強化		[(株)エコアス馬路村] 新商品の開発等、展示会等への出展、ホームページの改良等 [馬路林材加工協同組合] 設計士と連携した卸販売			木製品出荷額 (H22: 233,000千円) (H26: 251,910千円)	277,000千円
収益性の改善		川上部門の作業員の活用や原木の直接仕入れによるコストの低減			加工部門雇用者数 (H26: 27人)	27人(現状維持)
担い手の確保		インターンシップや企業のCSR活動と連携した新規就業者の確保				

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>7 芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大 《室戸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町》</p>	<p>芸東地域の水揚げ高の6割以上を占め地域経済への波及効果の大きい定置網の漁獲物を中心に、高鮮度化(神経メ等)や加工による高付加価値化、新たな販路の開拓による有利販売の取組を促進することにより、漁業所得の向上につなげる。</p>	<p>〔定置網漁獲物〕 ・室戸市定置漁業振興協議会 ・中芸定置網漁業振興協議会</p> <p>〔水産加工〕 ・(有)タカシン水産</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・キンメダイの冷凍フィレがサンプル出荷(H25)を経て、定番化 ・定置網漁獲物の簡易加工(イカ沖漬け)を試行(H26) ・大阪の量販店での宣伝販売の実施(H26) ・ハダカイワシ等、低利用魚の加工商品を製造販売(H26) ・定置網漁獲物の高鮮度処理(神経メ等)を試行(H27) ◆関西市場を中心にキンメダイのPRを行ってきた結果、高級食材としてのキンメダイの認知度が向上し魚価の上昇につながった。 また、キンメダイの冷凍フィレが業務筋から高い評価を受けるとともに、地域グルメのキンメ丼の材料として定着し、販売額が増加した。</p> <p>・水産加工施設(室戸工場)を整備し、地域の定置網漁獲物等を中心とした加工事業に着手(H21) ・主力の「しめサバ」に加え、ギフト用漬け商品、メジカフレーク、キンメフィレ等をはじめとする定番商品を開発し、販売(H21~28) ◆地域の雇用(11人)に貢献していることに加え、加工生産技術の向上等に伴い安定品質及び安定生産が確保されており、取引先が順調に増加してきている。</p>	<p>・定置網漁獲物の付加価値向上 ・定置網経営体の収入の安定化</p> <p>・水産加工の促進による付加価値向上</p>	<p>◆高鮮度処理魚の安定生産と販路確保 〔室戸市定置漁業振興協議会〕</p> <p>◆漁業者による簡易な自家加工品の製造販売 〔中芸定置網漁業振興協議会〕</p> <p>◆高鮮度を売りにした定置網漁獲物の販売促進 〔中芸定置網漁業振興協議会〕</p> <p>◆安定的な漁業生産の確保</p> <p>◆生産性向上と販路拡大</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>高鮮度処理魚の安定生産と販路確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高岡大教での生産・出荷体制の構築</li> <li>・高鮮度処理手法のマニュアル化による安定品質の確保</li> <li>・安定出荷のための小割生養の常設</li> </ul> <p>・マニュアルの活用による高岡以外の大教組合への高鮮度処理技術の普及、定着</p> <p>・室戸市内の各大教組合が参画した高鮮度処理魚の生産・出荷</p> <p>・「高知家の魚応援の店」制度等の活用による県外飲食店への販路確保</p> <p>・高知県漁協販売子会社と連携した販路確保</p> <p>・室戸市内の飲食店での取扱いの働きかけと、観光商材としてのPR</p> <p>・鮮魚仲卸業者等を通じた高知市内の飲食店向け販路の拡大</p>					<p>高鮮度処理魚の販売額 (H26:0千円)</p> <p>簡易加工品の販売額 (H26:0千円)</p>	<p>20,000千円</p> <p>3,000千円</p>	
<p>漁業者による簡易な自家加工品の製造販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易加工品(イカ沖漬け等)の製造体制の確立</li> <li>・地域の直販所の商材やふるさと納税の返礼品としての定着</li> </ul> <p>・地域外への販路拡大による販売金額の増加</p> <p>・新たな自家加工品の開発</p>							
<p>高鮮度を売りにした定置網漁獲物の販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県漁協販売子会社と連携した県内外への販路拡大(高知家の魚応援の店制度の活用等)</li> <li>・地元直販所や高知市内における鮮魚直販イベント等の継続</li> </ul>							
<p>安定的な漁業生産の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漁獲物全体の価格の底上げに向けた、船上での鮮度管理(水の適正使用等)のマニュアル化と励行</li> <li>・漁獲量の増大に向けた、漁具、漁網の水中形状の調査や、調査結果を踏まえた改良</li> <li>・急潮被害の軽減に向けた学習会の開催や防災対策の実践</li> </ul>							
<p>生産性向上と販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定置網漁獲物等を原料とした定番商品の開発とブランディング</li> <li>・遠洋マグロ漁業者と連携したマグロ類の差別化商品の開発、販売</li> </ul>					<p>加工品販売額 (H22:0.47億円) (H26:0.8億円)</p> <p>※(有)タカシン水産室戸工場</p>	<p>1.5億円</p>	

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
8 安芸市のシラス漁業者所得の向上 《安芸市》	平成25年に設立したシラス加工所によるシラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化と、シラスの水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を図る。	・安芸漁協 ・(株)安芸水産	アクションプランの取組開始:H21 ・企業、漁協、漁業者による加工処理能力向上に向けた協議(H23) ・シラス加工施設完成(H24) ・地元からの雇用創出(H24~) ◆漁業者・漁協・シラス加工業者との協議を実施した結果、漁業関係者はシラス加工処理能力の向上による水揚げ量の増加、及び漁家所得の向上を希望していることが確認できた。 ◆各種イベントでのPRや直販所での販売を通じて商品の認知度が高まった。	・漁業者、漁協、シラス加工業者による関係者の事業収入向上に向けた取組体制の構築 ・製造・出荷体制の強化、収益性の向上、販路拡大 ・シラス漁の鮮度保持体制の構築	◆シラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化 ◆商品力、販売力の強化と新たな販路確保 ◆シラスの鮮度向上
9 海洋深層水による地域産業の推進 《室戸市》	スジアオノリの陸上養殖事業のさらなる発展と、海洋深層水を利用した商品のブランド化をすすめることにより、地域産業の推進を図る。	・室戸市 ・深層水関連事業者	アクションプランの取組開始:H21 ・高知県漁協高岡支所(H27から室戸市が三島食品(株)に指定管理)がスジアオノリの小袋商品を「まるごと高知」や各種イベントなどで販売(H22~23) ◆生産性の向上や、新たな販売先を確保するなどにより、H21から収支が黒字化し、大幅な経営改善が図られた。	・スジアオノリの高品質化 ・新規参入者による養殖事業の展開 ・養殖事業の採算性の向上 ・深層水商品のPR ・企業・研究機関等との連携	◆スジアオノリ養殖事業のさらなる発展 ◆深層水商品のブランド化による販売力の強化 ◆海洋深層水を利用した海藻等養殖の研究開発
10 キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大 《室戸市》	新たに整備された加工施設を活用し、地域産品を使った商品を開発するとともに、商品の充実や販売を促進することにより、地産地消・外商の拡大と生産者の所得向上を図る。	・室戸市 ・協同キラメッセ室戸(有)	アクションプランの取組開始:H25 ・基本構想・基本計画の策定(H25) ・加工施設の整備及び駐車場の造成、トイレの改修(H26~27) ◆加工施設の整備及び駐車場の造成、トイレの改修により、道の駅キラメッセ室戸の機能が一体的に強化された。また、加工施設の整備に合わせて、新たな加工品の開発等、来場者の増加や満足度の向上に向けた取組が進んでいる。	・出荷作業スペースの確保 ・夏場の生鮮品不足 ・農産物出荷者の高齢化に伴う商品量の低下	◆施設整備 ◆農業の6次産業化の推進 ◆販路拡大と集荷体制の整備 ◆県外の道の駅等との連携



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>シラス加工処理能力の向上に対応した漁業体制の強化</p> <p>処理能力の向上に対応した漁業者、漁協、加工業者、行政等の連携強化(関係者間の協議)</p>					<p>水揚げ金額 (H26.1月～12月: 201,740千円)</p> <p>シラス漁獲量 (H26.1月～12月:393t)</p>	<p>210,000千円</p> <p>420t</p>
<p>商品力、販売力の強化と新たな販路確保</p> <p>製造・出荷体制の強化、販路拡大</p>						
<p>シラスの鮮度向上</p> <p>・鮮度調査 ・鮮度保持機器の導入に向けた検討</p> <p>鮮度保持機器の導入</p>						
<p>スジアオリ養殖事業のさらなる発展</p> <p>既存事業の高品質化と生産量拡大に向けた検討</p> <p>新規展開に向けた検討</p> <p>生産・加工体制の確立</p> <p>事業展開</p>					<p>スジアオリ生産量 (高岡漁港) (H26:2.4t)</p>	<p>3t</p>
<p>深層水商品のブランド化による販売力の強化</p> <p>商品PR及び販促活動</p>						
<p>海洋深層水を利用した海藻等養殖の研究開発</p> <p>新たな海藻等の陸上養殖技術の確立</p> <p>生産体制のモデル作りと実用化</p>						
<p>施設整備</p> <p>全体構想の協議</p> <p>施設整備の検討</p> <p>検討による整備</p>					<p>売上高 (H26:308,334千円)</p> <p>来場者数 (H23:244,968人) (H26:230,887人)</p>	<p>370,000千円</p> <p>260,000人</p>
<p>農業の6次産業化の推進</p> <p>法人による農業経営に向けた方向性の確認</p> <p>組織・人員体制の検討</p> <p>生産品目の検討</p> <p>農地の選定・準備</p> <p>加工品の開発・試作</p>						
<p>販路拡大と集荷体制の整備</p> <p>販路拡大</p> <p>持続可能な集荷システムの検討</p> <p>集荷の試行・実施</p>						
<p>県外の道の駅等との連携</p> <p>連携先の検討</p> <p>連携内容の検討・実施</p>						
<p>販路拡大と集荷体制の整備</p> <p>販路拡大</p> <p>持続可能な集荷システムの検討</p> <p>集荷の試行・実施</p>						

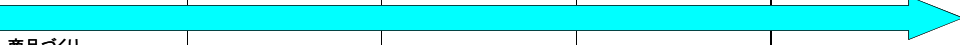
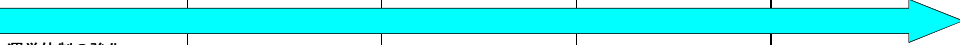



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
11 安芸本町商店街を中心とする地域の活性化 《安芸市》	「全国商い甲子園」の開催や、チャレンジショップ、中山間の移動販売などの取組を進めるとともに、新たな集客イベントや空き店舗対策等を行うことにより、商店街や周辺地域の活性化を促進する。	・安芸本町商店街振興組合 ・安芸商工会議所 ・安芸市	アクションプランの取組開始：H29		◆商店街を中心とする地域の活性化  ◆商店街への開業の誘致
12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興 《東洋町》	高知県の東の玄関口である東洋町の観光拠点施設および地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」により地域の活性化を図る。	・東洋町 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始：H21 ・H20.1月、海の駅東洋町(木造平屋建、171㎡)開設 ・H24.7月の火災による焼失のため、産業振興総合補助金を活用しH25.12月再建(木造平屋建、267㎡) ・H26.1月から運営再開 ◆順調に売り上げを伸ばしている。 売上高 H27:161,151千円 来場者 H27:174,122人 ・教育旅行の受入(H28、1回) ・直販所支援アドバイザー派遣制度の活用(H28、接客マナーとPOP作成研修)	・運営体制の強化 ・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の強化	◆運営体制の強化  ◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売
13 有害鳥獣等を活用した商品開発と販路開拓 《東洋町》	有害鳥獣であるイノシシやシカなどを活用して、食肉加工のほか町内で未利用となっている魚や野菜と組み合わせたペットフードを生産・販売するための加工施設を整備し、生産・販売体制を確立することにより、ジビエ振興による地域の活性化を図る。	・(株)熊谷ファーム ・(株)マルキョウ	アクションプランの取組開始：H28 ・町の補助金を活用し販促ツール等の作成(H28)		◆加工施設の整備  ◆商品開発と販路拡大

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
	商店街を中心とする地域の活性化 「全国 商い甲子園」等の既存イベントの拡充や情報発信の強化 他の団体や学校との連携によるイベントの企画・実施 観光資源を活用した観光客の誘致				空き店舗等を活用した新規開業 (H28:1件)	3件(H29~31累計)	
	商店街への開業の誘致 空き店舗の状況調査、移住対策と連動した空き店舗情報の発信 チャレンジショップの取組						
	運営体制の強化 出品者勉強会の開催、従業員研修の実施 責任者の配置				売上高 (H22: 133,765千円) (H26: 141,938千円)	168,990千円	
	地域特産品を活用した加工品の開発・販売 加工品の開発・販売による地産外商 加工施設の整備に向けた検討 ネット販売の検討	加工施設の整備 ネット販売の実施			来場者数 (H22: 153,446人) (H26: 157,790人)	180,000人	
	加工施設の整備 施設整備の検討・整備 原料確保の強化	加工体制の強化			売上高 (H26: 0千円)	20,000千円	
	商品開発と販路拡大 新商品開発 販促ツールの作成	商品のブラッシュアップ 販路開拓とブランド化に向けた取組					

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>14 地域食材を活かした奈半利町の特産品づくりの推進 《奈半利町》</p>	<p>地域資源を活用した加工品をつくるために整備した施設を活用し、地域特産品の生産と販路の拡大を図るとともに地域の生産者の収入の安定化を目指す。</p>	<p>・奈半利町 ・JA土佐あき ・奈半利なんでも市加工グループ ・(一社)なはりの郷 ・NCL48 ・漁協女性グループ</p>	<p>アクションプランの取組開始：H26【JA加工施設(奈半利味噌)】 ・産振補助金の活用による施設の増床及び機械の追加導入(H26) ◆「奈半利味噌」の増産体制が整備された。</p> <p>【農水産加工施設(奈半利のおかって)】 ・新商品の開発及び担い手の人材育成のため、エリアマネジメントを実施(H26) ・地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の整備(H28) ・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が奈半利のおかっての指定管理者となる。(H28)</p> <p>【水産加工施設(加領郷魚舎)】 ・新商品の開発及び担い手の人材育成のため、エリアマネジメントを実施(H26) ・地域づくり支援事業費補助金を活用した加工施設の整備(H28) ・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が加領郷魚舎の指定管理者となる。(H28)</p>	<p>・加工商品の販路拡大 ・新商品の開発及び販売体制の強化</p>	<p>◆商品づくり ◆運営体制の強化</p>
<p>15 完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用 《田野町》</p>	<p>製塩体験施設での塩づくり体験を通して交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。</p>	<p>・田野町 ・民間事業者</p>	<p>アクションプランの取組開始：H24 ・塩づくりの過程を見学・体験できる施設を整備(H24)、H25オープン ・町内の産業振興等の業務とあわせて、体験施設運営や塩づくりに携わる地域おこし協力隊を導入(H25:4人、H26:2人、H27:2人(H27.12月末時点で3人)) ・台風被害によりH26.8月以降休止、H27.4月から再開。 ・新たな体験メニューの実施(H27) ・塩に関する掲示物の作成及び多言語表記(H27) ◆H27の入込客数はオープンでにぎわったH25と同程度まで回復。 ◆施設の知名度が上がって、町内外から多くの学校が訪れるようになり、体験教育の場として活用されている。</p>	<p>・体験施設の実施体制の確立 ・集客できる体験メニューの充実 ・新規就業者の育成と関連産業への波及</p>	<p>◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増 ◆新規就業者の育成・環境整備 ◆関連産業への波及</p>

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<b>商品づくり</b> アドバイザーの活用等による加工商品の磨き上げ 新商品の開発 販売ルートの開拓				 	JA加工施設(奈半利味噌)の売上高(H26:5,140千円)	9,120千円
					農水産加工施設の売上高(H26:0千円)	9,000千円
					水産加工施設の売上高(H26:3,220千円)	12,000千円
<b>運営体制の強化</b> 人材育成事業の実施 なんでも市加工グループ法人化等の検討 NCL48の運営体制の整備(法人化等の検討) 漁協女性グループの運営体制の整備(法人化等の検討) 後継者の確保及び育成						
<b>製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増</b> 施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの造成と更なるPRによる誘客増				 	体験受入回数(H25:24回)	28回
					受入人数(H25:体験226人、見学:960人計1,186人)	体験:271人 見学:1,152人 計 1,423人
<b>新規就業者の育成・環境整備</b> ・方向性・実施方法の検討 ・関係者間の調整 施設整備 新規就業者の育成 新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整					塩関連での就業者数(H26:2人)	10人(累計)
<b>関連産業への波及</b> 農産物等への活用検討、加工品開発の支援、販路拡大の支援等						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
16 道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取組 《田野町》	田野駅屋の集客力を最大限に活用し、地域の特産品の直販機能や観光情報の発信機能を強化するとともに、地域農産物等を活用した加工品を開発・販売し、消費拡大を図っていく。 さらに、地域の産業振興における今後の田野駅屋のあり方について、施設整備等も含めた検討を行い、更なる地域の活性化をめざす。	・田野町 ・道の駅指定管理者 ・加工施設指定管理者 ・生産者組織 ・地域団体	アクションプランの取組開始:H21 【直販・飲食】 ・直販コーナーのレジ更新に伴うPOSシステム導入(H26) ◆国道沿い、ごめんなはり線田野駅の敷地内という地の利を生かし、20万人超の入込数と2億円超の売上高を安定的に保っている。  【情報発信】 ・田野駅屋拡張(74㎡増)(H23.3月) ・情報発信コーナーの整備 ◆中芸以東の観光情報発信の拠点として、観光客に情報提供が可能となった。 ・地域イベントへの参加や独自イベント開催(H21～) ◆田野町や地場産品のPRに貢献している。  【加工品開発・販売】 ・10品目の加工品を開発・試作したが、販売継続には至らなかった(H21、H22) ・酒粕スイーツ「蔵乃風」「蔵人の菓」等の開発、販売開始(H22～23) ・塩シャベット「塩姫」等、生姜のお菓子「爪の垢」の開発、販売開始(H24～25) ◆酒粕スイーツに関しては、数種類の商品を開発することができた。その後、新しい商品開発もを行い、商品構成を充実させることができた。 ◆酒粕以外の商品についても開発に取り組み、数種類の商品が販売となった。  【交流人口の拡大】 ・体験活動による交流事業の受入、主催(H22～) ◆大野地区では、H22から大野倶楽部が体験交流事業の受入、実施に取り組んでおり、なかでもごめんなはり線ウォーキングイベントの受入は定着し、毎年多くの参加者が地区を訪れるなど、交流人口の拡大に一定の成果が見られる。	・直販、飲食機能の強化 ・情報発信機能の強化 ・地場産品を活用した魅力ある特産品(加工品)の開発と販売体制の強化  ・機能強化のための施設整備に向けた検討及び調整	◆機能強化・小さな拠点化のための施設整備等  ◆直販・飲食機能の強化  ◆情報発信機能の強化・交流人口の拡大  ◆加工品の開発・販売の強化
17 地場産品直販所「かっぱ市」による地域活性化 《芸西村》	地場産品直販所「かっぱ市」において、安定供給の仕組みを作るとともに、芸西村に開所する集落活動センターと連携し、新商品開発や販路開拓等の外商活動に取り組むことにより、地域経済の活性化につなげる。	・芸西村 ・(有)かっぱ市 ・生産者グループ	アクションプランの取組開始:H22 ・H23.10月に産業振興総合補助金を活用しリニューアルオープン(H23) ・店内調理場での弁当等加工品の販売開始(H24.10月～) ・産振アドバイザーの助言による既存商品及び売り場の改善(H25) ・新商品「黒みつ」の販売と、黒みつを使用したかき氷の販売開始(H26) ・店内にイートインコーナー設置(H26) ・東京のアンテナショップ視察研修(H26) ・集荷システムの構築についての検討開始(H27) ・野菜ソムリエ取得講習受講(H27) ・HACCP研修の受講(H28)  ◆商品パッケージのリニューアル等により売上が増加した。	・商品集荷システムの構築による商品不足の解消 ・新商品の開発 ・集落活動センターとの連携	◆安定供給の仕組みづくり  ◆新商品の企画開発及び集落活動センターと連携した外商活動  ◆地域観光情報の発信  ◆体験メニューの開発・実施

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
機能強化・小さな拠点化のための施設整備等				→	年間売上高(1月～12月) (H26: 258,729千円)	400,000千円
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のあり方検討</li> <li>・基本計画の策定</li> <li>・関係者間の協議</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施計画の策定</li> <li>・具体的な準備</li> </ul>	事業実施			
直販・飲食機能の強化				→		
課題の洗い出しと改善						
人材育成(スキルアップ研修、先進地視察等)				→		
情報発信機能の強化・交流人口の拡大						
顧客のニーズ把握とインターネット・ガイドマップ等を活用した情報発信				→		
観光・宿泊施設との連携による情報の共有と誘客及び交流人口拡大のための取組						
人材育成(OJTによる育成、先進地視察等)				→		
加工品の開発・販売の強化						
加工品開発・販売に向けた態勢づくりと人材育成				→		
素材の掘り起こし、生産者と連携した加工品づくり						
安定供給の仕組みづくり				→	売上高 (H22: 87,000千円) (H26: 135,000千円)	200,000千円
集荷システムの検討・営業時間の検討、試験的实施		見直し・本格的実施				
新商品の企画開発及び集落活動センターと連携した外商活動				→		
検討・試作・テストマーケティング		商品化・販売開始				
商談会や展示会への出展				→		
地域観光情報の発信						
ホームページ等の整備		ホームページやfacebookでの情報発信・パンフレット設置コーナーの充実		→		
体験メニューの開発・実施						
体験メニューの開発				→		
体験メニューの実施						
検証		磨き上げ		→		
検証		磨き上げ				

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>18 安芸地域の観光振興の推進</p> <p>《安芸地域全域》</p>	<p>H27年度に開催された東部地域博覧会で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継ぎ、同博覧会の成果を更に拡大させることにより、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて新たに設立した広域観光組織の基盤を整備し、体験プログラムの磨き上げ、民泊の推進、情報発信等を行うとともに、歴史と食、地域文化の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(一社)高知県東部観光協議会</li> <li>・安芸広域市町村圏事務組合</li> <li>・市町村</li> <li>・観光協会等</li> <li>・地域団体</li> <li>・民間事業者</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始:H21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光素材集「土佐東方見聞録」の作成5万部(H21~22)</li> <li>・DVDの作成 500枚(H21)</li> <li>・ランドオペレーター1人雇用(H22.6月~)</li> <li>・安芸球場キャンプ誘致活動(H21~23)</li> <li>・安芸球場改修基本設計(H23)</li> <li>・エージェントセールス(H25.1.10~11中四国、H25.2.5~6関西)</li> <li>・教育旅行誘致用の広域パンフレット作成(H25)</li> <li>・東部地域博覧会の「基本計画」(H25)、「実施計画」(H26)の策定</li> <li>・東部地域博覧会の推進に向けたイベント審査会、企画運営部会、企画運営コアメンバー会、広報誘客部会、受入おもてなし部会の設置及び開催(H26)</li> <li>・広域観光アドバイザー研修:13回(H26)</li> <li>・東部博現地研修:3回(H27)</li> <li>・東部地域博覧会実施計画に基づく広報PR及びセールス活動(H26~27)</li> <li>・(一社)高知県東部観光協議会設立(H27)</li> <li>・高知県東部観光協議会を中心とした県外での観光PR実施、旅行会社へのセールス活動実施、東部地域での民泊候補世帯の訪問による民泊登録世帯の増加</li> <li>◆素材集を活用した県外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に森林鉄道、室戸ジオパーク、モネの庭をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつながった。</li> <li>また、東部地域博覧会(H27.4.29~12.23)の開催により、新たなイベントや体験プログラム等の造成、観光素材の磨き上げが行われた。さらに、東部地域博覧会の広報PR、セールス活動により、東部地域の観光素材が広く認知された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東部博の成果の継続と地域への波及</li> <li>・東部観光協議会の基盤整備及びミッションの明確化</li> <li>・東部地域内の行政や住民との連携強化</li> <li>・戦略的な商品造成</li> <li>・教育旅行に向けた民泊及び体験メニューの充実と人材育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施</li> <li>◆観光協会等の機能強化と東部観光協議会との連携</li> <li>◆戦略的な広報・PR活動の展開</li> <li>◆着地型商品の造成・販売</li> <li>◆教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施</li> </ul>
<p>19 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大</p> <p>《奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村》</p>	<p>森林鉄道遺産(産業遺産、森の仕事、当時の生活文化等)を中芸地区の新しい地域資源(地域遺産)ととらえ、一般層の利用も視野に入れた活用に取り組み、地域連携を通して、交流人口の拡大や文化活動の促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈半利町</li> <li>・田野町</li> <li>・安田町</li> <li>・北川村</li> <li>・馬路村</li> <li>・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会</li> <li>・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始:H21</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行会社等によるツアーの催行(H22~)</li> <li>・案内看板、遊歩道、駐車場の設置(H21~23)</li> <li>・観光用ビデオの作成(H22)</li> <li>・開通100周年事業の実施(H23~24)</li> <li>・ガイドの育成27人(H21~23)</li> <li>・旧魚梁瀬森林鉄道施設保存活用計画策定協議会の設置(H25)</li> <li>・中芸地区森林鉄道遺産を保存・活用する会の自主的な活動の充実(H25)</li> <li>・東部博関連イベントとして魚梁瀬森林鉄道ジオラマ展及びアート&amp;ライブの実施(H27)</li> <li>・保存活用計画策定(H27)</li> <li>・日本遺産申請に向けた中芸5町村、地域団体、大学等による「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会の設立(H28)</li> <li>・「魚梁瀬森林鉄道」日本遺産推進協議会による日本遺産認定申請(H28)</li> <li>◆魚梁瀬森林鉄道に係る様々なイベントや研究活動等がなされており、林鉄ガイドも中芸地域の体験型観光の一つとして定着している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高知家まるごと東部博の成果を活かした更なる情報発信</li> <li>・5カ町村の整備・活用に向けた推進体制、仕組みづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆遺産の活用と普及啓発活動</li> <li>◆保存活用計画策定後の整備及び活用策の検討</li> </ul>



第3期計画					H32以降	指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)		
<p>東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施</p> <p>旅行業の登録</p> <p>マーケティング調査及び分析の実施並びに調査結果に基づく観光戦略づくり</p> <p>マーケティング調査の継続実施及び観光戦略の実施</p>					<p>圏内主要施設訪問者数(圏内観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数)(1月～12月) (H27:2,401,821人)</p>	<p>2,606,000人</p>		
<p>観光協会等の機能強化と東部観光協議会との連携</p> <p>観光協会等の機能強化・情報共有会議の継続開催による役割分担の明確化及び目標の共有</p>								
<p>戦略的な広報・PR活動の展開</p> <p>東部地域のホームページ作成</p> <p>旅行エージェント、マスコミ等への戦略的な広報活動の展開及びホームページ、パンフレット等による観光情報の発信強化</p>								
<p>着地型商品の造成・販売</p> <p>旅行業の登録</p> <p>体験プログラムの磨き上げやマーケティング調査結果を活用した東部地域での周遊観光の商品化及び東部地域での観光クラスターづくりへの支援</p>								
<p>教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施</p> <p>教育旅行の受入体制の強化による誘客の推進</p> <p>地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備</p> <p>民泊の推進、人材の養成、インバウンド対策など受入体制の整備</p>								
<p>遺産の活用と普及啓発活動</p> <p>魚梁瀬森林鉄道ジオラマを活用した拠点づくりの検討</p> <p>拠点施設整備</p> <p>魚梁瀬森林鉄道ジオラマを活用した交流人口の拡大に向けた取組</p> <p>遺構見学ツアー等の実施と森林鉄道のネットワークを活用した普及・啓発活動</p> <p>大学連携事業を契機とした全国に向けた情報発信の取組</p> <p>日本遺産認定申請に向けた取組</p> <p>日本遺産認定後の活用</p>							<p>ツアー等による林鉄ガイド実績 (H26:846人)</p>	<p>1,500人</p>
<p>保存活用計画策定後の整備及び活用策の検討</p> <p>計画に基づく施設整備等、保存と活用を支える仕組みづくり</p>							<p>拠点施設年間来館者数 (H26:0人)</p>	<p>1,000人</p>

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
20 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興 《室戸市》	世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や旅行商品開発に取り組み交流人口の拡大を図る。	・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会	アクションプランの取組開始:H21 ・看板や遊歩道、駐車場などの環境整備(H21~27) ・ガイド養成講座等の実施(H21~27) ・世界ジオパーク認証(H23) ・日本ジオパーク全国大会の開催(H24) ・室戸世界ジオパークセンターの整備(H25~26) ・室戸世界ジオパークセンターオープン(H27) ・世界ジオパーク再認定(H27) ◆日本ジオパーク全国大会(参加者:約2,200人)を開催し、宿泊・食事利用等の経済効果や地域住民との連携が図られるとともに、室戸ジオパークの理解が促進された。 また、ジオパークの拠点となる「室戸世界ジオパークセンター」の整備により、受入体制が強化された。 ジオパークガイド利用者数 H27:15,868人 室戸世界ジオパークセンター来場者数 H27:103,065人 ・観光アドバイザーによる館内ガイド接遇研修実施(H28) ・土佐の観光創生塾に参加(H27:5人)	・受入体制の強化 ・ジオパークセンターの整備 ・ジオサイトの見直し	◆ガイド育成  ◆ジオツアー・体験プログラムの推進  ◆情報発信、国際交流   ◆ジオパークセンターの整備   ◆サイト整備
21 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大 《室戸市》	室戸岬漁港(新港)の「海の駅とろむ」を核として、マリンレジャーや体験プログラムの充実による交流人口の拡大を図る。	・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸黒潮協同組合 ・(一社)うみ路 ・室戸市	アクションプランの取組開始:H21 ・施設・設備等(ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板)の充実(H21~23) ・広告宣伝の強化(H21~23) ・体験プログラムの見直し(H22~23) ・陸上施設の建築及び陸上プール(直径10m、水深5m)の整備(H24) ・補助プールの整備(H25) ◆高額プログラムのドルフィンスイムの参加者が大幅に増加した。(H20:1,204人→H26:1,464人) また、設備等の充実や物販・休憩スペースの確保により、来場者の満足度の向上、事業収入の増加につながった。	・より多くの集客を図るための広報・営業の検討 ・とろむ内の全施設と連携した集客 ・ダイビング事業展開のための事業推進体制の整備	◆室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化  ◆室戸黒潮協同組合(ちばうま八、くじらはま)の機能強化  ◆「貝類等収穫体験」の施設整備   ◆ダイビング事業展開に向けた施設整備等

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>ガイド育成</p> <p>ガイド研修(登録ガイド数の増加・外国語対応ガイドの育成)</p>					<p>ジオパークガイド利用者数 (H26: 7,869人)</p>	<p>10,000人</p>	
<p>ジオツアー・体験プログラムの推進</p> <p>既存ジオツアー・体験プログラムのブラッシュアップ</p> <p>ジオツアー・体験プログラムの開発・実施</p> <p>ジオパークセンターを発着地としたジオツアーの開発</p>							<p>室戸世界ジオパークセンター入館者数 (H26: 0人)</p>
<p>情報発信、国際交流</p> <p>日本ジオパーク再審査</p> <p>世界ジオパーク再審査</p> <p>全国大会及び国際会議でのPR・イベントの開催</p> <p>主要パンフレット等の更新・多言語化</p>					<p>ジオパークセンターの整備</p> <p>遊休地の利活用検討・整備</p> <p>体育館・プールの利活用検討</p> <p>体育館・プールの整備</p> <p>展示内容のリニューアル</p>	<p>31,000人</p>	
<p>サイト整備</p> <p>既存ジオサイトの見直し・新規ジオサイトの検討</p> <p>ジオサイトの再整備</p>							<p>室戸ドルフィンセンター来場者数 (H22: 22,181人) (H26: 24,431人)</p>
<p>室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化</p> <p>体制強化と人材育成</p> <p>新規プログラムの開発</p> <p>オリジナルグッズの開発</p> <p>施設の磨き上げ</p> <p>とろむ内全施設が連携した情報発信</p>					<p>室戸黒潮協同組合(ちばうま八、くじらはま)の機能強化</p> <p>教育旅行の受入</p> <p>魅力ある店舗づくりと広報・宣伝活動</p>	<p>「貝類等収穫体験」の施設整備</p> <p>施設整備に向けた検討</p> <p>施設整備</p> <p>規模拡大に向けた検討</p> <p>体験プログラムの実施と広報・宣伝活動</p>	
<p>ダイビング事業展開に向けた施設整備等</p> <p>施設整備の検討</p> <p>施設整備</p> <p>関係者との調整</p> <p>テナント募集・広報</p> <p>運営体制の検討</p> <p>ダイビング事業実施</p> <p>ダイビングショップへの情報発信(ダイビングスポット)</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
22 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進 《安芸市》	既存の観光資源の磨き上げや、自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により観光客の満足度の向上を図り、交流人口の拡大及び観光関連産業の活性化に繋げる。	・安芸市 ・安芸市観光協会 ・漁協 ・伊尾木あなごう保存会 ・内原野陶芸館 ・JA土佐あき ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・廊中ふるさと館 ・メリーガーデン ・はたやま夢楽 ・安芸「釜あげちりめん井」楽会 ・道の駅大山	アクションプランの取組開始:H21 ・土佐龍馬であい博での、こころざし社中開催(H22入場者、113千人、目標100千人) ・H23.3月、安芸観光情報センターの設置 ・岩崎弥太郎像の移転(H26) ・廊中ふるさと館の施設改修(H26) ・安芸観光情報センターの改修(H26) ・内原野陶芸館の改修(H26) ・安芸「釜あげちりめん井」楽会による、ちりめん井の市内外でのPR活動やちりめん井提供店舗拡大の取組(H22～) ◆岩崎弥太郎像の生家周辺への移転や廊中ふるさと館の改修等が行われ、観光に関連した施設等の魅力が向上した。また、H27に行われた「じゃこサミット」(高知東海岸グルメまつり、おさかな祭り、安芸市産業祭と同時開催)には、2日間で延べ約3万人の来場があった。	・体験プログラムの充実 ・市内での滞在時間の延長	◆岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上)  ◆大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上  ◆新たな体験プログラムの造成  ◆既存体験プログラムのブラッシュアップ  ◆地域食材を活用した商品づくり
23 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 《東洋町》	サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行うことにより交流人口の拡大を図る。	・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・宿泊事業者 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始:H25 ・高知県観光拠点整備事業費補助金を活用し、白浜キャンプ場炊事場を整備(H26) ・地域おこし協力隊(観光)1人着任(H26)  ◆整備対象施設の現況調査により、課題が明確化され、今後の取組の方針決定につながった。  ・体験プログラムの開発(H26～) ・こけら祭りの開催(H26～) ・産振アドバイザー制度の活用(東洋町観光振興協会の課題整理と人材育成など:3回) ・こうちカメラ女子旅in東洋町モニターツアーの実施(1回) ・教育旅行の受入(H28、1回) ・観光アプリの提供開始(H28)	・地域資源を活かした体験プログラムの開発 ・地元事業者(サーフショップ等)との協調 ・受入施設の整備	◆海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発  ◆東洋町観光振興協会の体制強化  ◆誘客の促進  ◆サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上)</p> <p>パワースポットとしての認知度向上に向けた検討</p> <p>周辺の整備 (星神社門扉、案内板、トイレ改修等)</p>					市内年間観光客数 (H26: 196,895人)	300,000人
<p>大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上</p> <p>大山岬周辺と道の駅の施設整備の検討・実施</p> <p>大山岬(恋人の聖地)の魅力発信(イベントの企画・開催)</p>					市内年間宿泊者数 (H22~26平均値: 22,721人)	25,000人
<p>新たな体験プログラムの造成</p> <p>・シラス漁見学、果実収穫体験等の新たな体験プログラムの造成(体験プログラムについて関係者等との体制構築)</p> <p>・モニターツアーの実施</p> <p>体験プログラムの実施・ブラッシュアップ</p>					ちりめん井販売食数 (H26: 40,846食)	50,000食
<p>既存体験プログラムのブラッシュアップ</p> <p>既存体験プログラムのブラッシュアップ</p>						
<p>地域食材を活用した商品づくり</p> <p>・ナス・ユズ・土佐ジロー・シラス・マンゴーなどの地域食材を活用したメニューや商品の開発</p> <p>・メニューのPR活動(釜あげちりめん井等)</p>						
<p>海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発</p> <p>海の駅の観光案内窓口の強化</p> <p>体験プログラムの磨き上げと開発およびガイド育成</p>					体験者数 (H27: 0人)	5,000人
<p>東洋町観光振興協会の体制強化</p> <p>法人化と事務局体制強化</p> <p>人材育成</p>						
<p>誘客の促進</p> <p>農林漁家民泊の推進</p> <p>魅力的な観光地域づくり、観光情報の発信・プロモーション</p>						
<p>サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化</p> <p>アンケート調査</p> <p>整備内容の検討</p> <p>施設と備品の整備</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
24 藤村製絲を活用した観光振興 《奈半利町》	藤村製絲記念館を活用した観光振興に取り組むことにより、交流人口の拡大を図る。	・藤村製糸(株) ・奈半利町 ・(一社)なはりの郷	アクションプランの取組開始：H26 ・高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、観光拠点施設となる藤村製絲記念館を建設(H26) ・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が事業主体となり、高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、新たに観光案内看板、観光ガイドブック、町歩きマップ、展示用パネルを整備(H28)	・藤村製絲記念館の活用拡大 ・関係機関との連携 ・広報等の強化	◆記念館の活用拡大
25 北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大 《北川村》	北川村温泉、北川村「モノの庭」マルモットン及び中岡慎太郎関連施設の北川村観光3施設で実施するイベントの開催に関する広告宣伝や営業活動の強化等に取り組むことにより、集客力を高め、交流人口の拡大を図る。	・北川村(株)きたがわジャルダン ・北川村観光協会 ・NPO法人中岡慎太郎先生顕彰会	【北川村「モノの庭」マルモットン】 アクションプランの取組開始：H23年度 ・旧ワイナリーを多目的ホールへ改修(H22) ・TVや専門誌等様々な広告媒体を用いたPR(H22～23) ・経営コンサルタントのアドバイスを受けたコスト削減への取組(H23～) ・庭園整備(H22、H23) ・接客アドバイザーによる接遇マナー研修の実施(H25～) ・産業振興アドバイザー制度の活用(H28、飲食施設の再建、魅力向上) ・モネレストランリニューアルオープン(H28) ◆入園者数(決算期の毎年2月から翌年1月までの年間入園者数) H21.2～H22.1 60,040人 H22.2～H23.1 53,369人 H23.2～H24.1 59,101人 H24.2～H25.1 55,288人 H25.2～H26.1 56,281人 H26.2～H27.1 54,115人 H27.2～H28.1 66,533人 H28.2～H28.11 57,247人 【北川村温泉】 アクションプランの取組開始：H26年度 ・北川村温泉リニューアル基本計画策定(H25) ・基本設計及び実施設計(H26) ・北川村温泉改修工事のため閉館(H27.8月～) 【中岡慎太郎関連施設】 ・産業振興アドバイザー制度の活用(H28、観光ガイドやイベント企画など)	・東部博終了を踏まえた誘客対策の強化 ・県外での認知度の向上 ・外国人観光客の受入態勢の強化 ・3施設の連携強化	◆3施設のターゲットに応じたプロモーション活動  ◆3施設の連携強化、各施設の磨き上げ  ◆温泉施設の整備及び利活用

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<p>記念館の活用拡大</p> <p>観光資源としての磨き上げ</p> <p>(一社)高知県東部観光協議会等と連携した誘客活動の強化</p> <p>町内ガイド組織との連携</p> <p>町並みガイド等での活用拡大</p> <p>住民とのワークショップによる観光施策の検討</p> <p>観光パンフレットの作成やホームページ等による情報発信の強化</p>					<p>来館者数(1月～12月) (H26:0人)</p>	<p>1,500人</p>	
<p>3施設のターゲットに応じたプロモーション活動</p> <p>ターゲット(エリア別、属性、季節別)に応じたプロモーション方法の検討</p> <p>ターゲット別プロモーション活動の展開 (マスコミ、タウン誌、ロコミ、SNS、ブローガー、レストランなどの活用)</p>							
<p>3施設の連携強化、各施設の磨き上げ</p> <p>3施設の周遊の仕組みづくりの検討 (周遊マップの作成、レンタサイクル、スタンプラリー等「志国高知 暮末縁新博」と連携したイベントの開催)</p> <p>3施設の周遊の仕組みの実践と磨き上げ (実施→課題の洗い出し→磨き上げ)</p> <p>外国人観光客受入促進のための施設整備等 (Wi-Fi整備、多言語看板の整備等)</p> <p>モネ開園20周年に向けたPR施策づくり</p> <p>モネ開園20周年イベントの開催(H32)</p>					<p>各施設入園(館)者合計数 (H26:80,983人) ※内訳 モネの庭 70,000人 北川村温泉 28,000人 中岡慎太郎館 10,000人 北川村温泉 53,174人 (H26.4～H27.3) 21,682人 中岡慎太郎館 6,127人</p>	<p>108,000人</p>	
<p>温泉施設の整備及び利活用</p> <p>実施設計</p> <p>施設の整備</p> <p>集客に向けた取組 (リニューアルオープン告知、パンフレットの作成、施設周辺での体験プログラムの提供など)</p>							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
26 旧椎名小学校を活用した地域振興 《室戸市》	旧椎名小学校の改修にあわせてミニ水族館、標本などの模型の展示、魚さばき体験スペースなどを整備するとともに、住民主体の活動を促進し、地域の課題解決や交流人口の拡大を図るため集落活動センター設置に向けて取り組む。	・室戸市 ・地域住民団体(椎名名常会) ・椎名大敷組合 ・民間事業者	アクションプランの取組開始:H27 ・椎名小学校活用検討委員会(H27.3回) ・地元説明会(H27.9) ・地域住民との先進地視察(H28.5) ・地区住民によるワークショップ(H28.7)	・施設の利活用及び運営体制の検討 ・ウミガメ協議会や椎名大敷組合との連携 ・住民の組織づくり ・外部人材の活用	◆施設整備  ◆集落活動センターの設置   ◆情報発信
27 集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり 《安芸市》	安芸市東川地区の資源を活用した加工品の開発や、農産物の販路の拡大を通じて所得の向上を図るとともに、交流人口の拡大や移住促進の取組を通じて、持続可能な集落づくりを目指す。	・東川地域おこし協議会 ・かまん企画	アクションプランの取組開始:H26 ・集落活動センター「かまん東川」の開設(H25.9月) ・地域おこし協力隊による地域資源を活用した商品開発(紅茶やはちみつ等)や東京等での商品販売(H26) ・東川若いもんグループによるモニターツアー等イベントの企画、運営(H26~27) ・東川ふれあい市の開催(H26~) ・HPの立ち上げ(H26) ・フェイスブックでの情報発信(H26~) ・入河内集落内の空き家調査(H26)  ◆地域おこし協力隊により、地域資源を活用した新たな商品が出来た。また、HPやフェイスブックでの情報発信、新たな交流イベントの実施等により、地域外の方に関心を持ってもらえる機会が増えた。  ・任期を終えた元地域おこし協力隊(かまん企画)が中山間地域の買物困難者に対する支援として、移動販売事業を開始	・活動を収入につなげていく仕組みづくり ・集落活動センターの体制強化 ・地域資源を活用した加工品や農産物の販路の拡大 ・地域おこし協力隊への定住支援 ・移住促進に向けた住居の確保 ・交流イベントの内容充実と参加者の確保	◆地域資源を活用した新商品の開発     ◆農産物等の販路拡大   ◆交流人口の拡大   ◆移住促進への取組



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
<b>施設整備</b> 施設の改修 管理運営体制の検討 魚類等の展示と体験プログラムの実施					→		
<b>集落活動センターの設置</b> 住民の組織づくり 事業内容の検討 事業活動の展開 外部人材の活用							
<b>情報発信</b> PR方法の検討 広報・PRの実施					→		
<b>地域資源を活用した新商品の開発</b> 商品開発(新商品、ギフトセット等) 販路拡大(ネット販売) 販売体制の整備、東川のブランド作り						→	入河内大根生産量 (H26:3,000本)
<b>農産物等の販路拡大</b> 入河内大根の栽培方法確立 入河内大根生産拡大、販路拡大、加工品の検討					→		交流イベント参加者数 (H26:350人)
<b>交流人口の拡大</b> 交流イベントのブラッシュアップ、参加者との繋がりを継続できる取組の検討 憩いの家の活用方法について検討・施設の改修等						→	
<b>移住促進への取組</b> 空き家を移住促進住宅へ改修 移住促進住宅の開設、移住者の受入 空き家活用に向けた取組(掘り起こし、交渉)					→		

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
28 奈半利ブランドの確立と販路の拡大 《奈半利町》	集落活動センターを拠点として、奈半利町内の生産物の増産及び新たな加工品の企画・開発を促進するとともに、ふるさと納税の取組や情報発信の強化による奈半利ブランドの確立を図ることで、外商や交流人口を拡大し、地域のにぎわいを生み出す。	・奈半利町 ・(一社)なはりの郷	アクションプランの取組開始:H28 【運営主体の取組】 ・集落活動センターなはりの郷活性化協議会設立(H27) ・(一社)なはりの郷設立(H27) ・集落活動センターなはりの郷開所(H27) ・奈半利駅構内、旧弘瀬家住宅、奈半利町海浜センター、奈半利のおかつて、加領郷魚舎の指定管理の開始(H28) ・奈半利駅物産館無花果の運営の開始(H28) ・通販事業の開始(H28) ・奈半利町観光推進事業の実施(H28) ・農作業受委託のオペレーター受託(H28) ・農作物の生産開始(H28)  【外部人材の導入】 ・集落活動センター推進アドバイザー制度の活用(H28、センター事業の実施計画策定と実働体制の整備) ・産業振興アドバイザー制度の活用(H28、適正な会計の仕組みづくり)	・事業運営体制の構築	◆拠点整備(集落活動センターの設置)  ◀地産地消・外商推進部門▶ ◆ふるさと納税制度を活用した地産外商の強化  ◀観光・移住部門▶ ◆情報の発信・交流人口の拡大    ◀社会福祉部門▶ ◆住民の集いの場、生きがいづくり    ◀一次産業部門▶ ◆一次産業の振興
29 安田中山地区の活性化プロジェクト 《安田町》	地区住民が主体となり、安田ふるさと応援隊と協力して集落活動センターの運営を行い、地域資源である自然薯の生産拡大に取り組みるとともに、地域の観光資源を活用して交流人口の拡大を図るなど、中山地区を元気にする取組を推進する。	・安田町 ・中山を元気にする会 ・安田川漁協 ・自然薯生産組合 ・味工房じねん ・中山合同女性部	アクションプランの取組開始:H24 【施設改修】 ・旧中山小学校(集落活動センター)の耐震診断(H25) ・旧中山小学校(集落活動センター)の改修工事(H26) ・旧中山小中学校活用検討委員会設置(H28) 【運営主体の取組】 ・中山を元気にする会運営会開催(H24) ・中山を元気にする会運営会の月例化(H25～) ・集落活動センター「なかやま」の開設(H25.4月) ・山学試験栽培の実施(H26～) ・町シェアオフィス事業との連携開始(H26～) ・なかやま山芋まつりの活性化(H28来場者約1,200人) 【高知大学との連携】 ・高知大学・安田町連携事業協議会設置(H24) 【外部人材の導入】 ・安田町ふるさと応援隊の導入(H25～) H28.3月時点で4人が活動支援 ・集落調査員2人の採用(H25) ◆ふるさと応援隊の活動や大学との連携を通して地域住民の集落活性化への取組に対する参加意識が醸成されつつある。 また、地域の拠点が整備されたことにより、住民の集う機会も増加するなど集落活動センターを中心とした新たな動きが生まれてきた。	・集落活動センターの円滑な運営の継続、経済的自立に向けた仕組みづくり ・旧中山小中学校未改修部分の活用策の検討	◆旧中山小中学校を活用した多機能総合交流拠点施設の整備    ◆集落活動センターの取組の充実    ◆経済的自立に向けた取組

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
拠点整備(集落活動センターの設置)					→	集出荷センター取扱高 (H27.7月～H28.6月:2億円)	3億円
仕組みづくり・活動の検討		活動の展開と見直し改善					
ふるさと納税制度を活用した地産外商の強化					→		
ふるさと納税返礼品手配事業の受託							
奈半利ブランドの確立のための商品開発、外商機能の強化及び町産品のPR等							
集出荷センターの整備					→		
情報の発信・交流人口の拡大							
奈半利町観光推進事業の実施							
移住の促進(相談窓口の設置、空き家バンク、モニターハウスの管理)					→		
住民の集いの場、生きがいがづくり							
住民サロンの運営、高齢者のいきがいがづくり活動等、社会福祉部門との連携策の検討					→		
一次産業の振興							
農業複合経営拠点稼働に向けた運営委員会での検討		農機具の貸出・作業受委託・新規就農者受入等の取組					
農作物の生産					→		
旧中山小中学校を活用した多機能総合交流拠点施設の整備							
活用策の検討		施設整備(段階的に整備)					
施設を活用した地域のにぎわいづくり					→	交流人口 (H26: 3,329人)	3,600人
集落活動センターの取組の充実							
地域福祉活動・支え合いの推進(集いの場・健康づくり活動等の発展と継続)					→	じねんレジ通過者 (H26: 25,711人)	28,000人
大学連携事業による地域の活性化							
耕作放棄地の解消に向けた取組や空き家情報の収集活動					→	集落活動センター利用者数 (H26.12月～H27.3月: 689人)	3,200人
観光資源の発掘と磨き上げ(魚梁瀬森林鉄道や郷土出身の維新の志士等の資源活用)		観光資源の活用による「志国高知 幕末維新博」との連携		観光素材として定着化に向けた取組の継続			
経済的自立に向けた取組							
自然蓄栽培拡大					→		
規格外品の加工、販売、販路の開拓							
ふるさと応援隊による特産品開発、販売							

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
30 北川村中部地区の活性化プロジェクト 《北川村》	北川村中部地区の集落活動の展開と北川村温泉の改修を契機とした誘客の強化により、交流人口を拡大することで、中山間地域の振興を図る。	・北川村 ・北川村中部地区集落活動協議会 ・北川村観光協会	・アクションプランの取組開始：H26 ・地場産品を販売する温泉直販市の設置（H25～） ・休耕田の整地と花畑作り、イベントの開催（H26～） ・温泉レストランでの地元産品の活用（H26） ・地域食材を活かしたイベントの開催（H28）	・地域住民の高齢化にともなう人手不足 ・交流人口増加 ・中部地区集落活動協議会事務局体制の強化 ・地域住民の団結力や参画意識の醸成	◆地域交流活動の展開  ◆北川村温泉との連携  ◆田舎暮らし体験、移住促進への取組
31 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト 《馬路村》	馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。	・馬路村 ・魚梁瀬地区住民団体（自治会）	アクションプランの取組開始：H26 ・魚梁瀬ふるさと応援隊2人の採用（H26） ・ふるさと応援隊による魚梁瀬バスポート、雑祭りなど交流人口の拡大に向けた活動の開始（H26） ・農業振興センター、森林技術センターと連携した地域資源調査の開始（H28）  ◆ふるさと応援隊による交流人口の拡大に向けた取組や魚梁瀬50年記念イベントの開催を通じて、地域住民の参加意識が醸成されつつある。	・住民組織の活性化 ・ふるさと応援隊による地域の巻き込み、住民との連携（リーダー・担い手の確保、育成） ・新たな外部人材の導入による体制の強化	◆外部人材の導入と住民組織づくり   ◆地域資源を活用した産業おこし  ◆魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
<p>地域交流活動の展開</p> <p>休耕田を活用した花畑づくりや関連イベントの企画、開催</p> <p>地域おこし協力隊導入の検討と公募</p> <p>地域おこし協力隊の活用</p> <p>新たな活動の掘り起こし</p>				<p>交流イベント参加者数 (H27: 400人)</p>	700人	
<p>北川村温泉との連携</p> <p>温泉施設のリニューアル工事</p> <p>チラシ、ホームページ、マスコミを活用した情報発信</p> <p>温泉再開後の北川村中部地区集落活動協議会の活動の検討</p> <p>温泉での直販コーナー運営等、温泉と地域との連携イベントの開催</p>						
<p>田舎暮らし体験、移住促進への取組</p> <p>小島地区への移住お試し住宅整備の検討と改修工事</p> <p>移住お試し住宅のPRと利活用(マスコミ、ホームページ、移住相談会での広報)</p> <p>田舎暮らし体験メニューづくり (ゆず収穫、鮎釣り、田舎寿司づくり、家庭菜園等)</p> <p>体験メニューの実施・フラッシュアップ</p>				<p>丸山公園魚梁瀬森林 1,830人以上 鉄道利用者数 (H24~26平均値: 1,523人)</p> <p>山村留学による魚梁瀬地区への転入 (H26: 4組)</p> <p>5組 (H28~31累計)</p>		
<p>外部人材の導入と住民組織づくり</p> <p>高知ふるさと応援隊の追加導入</p> <p>高知ふるさと応援隊による地域活性化、観光振興、生活支援等の活動</p> <p>応援隊と住民による地区活性化に向けた定期的な話し合い</p> <p>地域活性化に向けた地域住民、小中学校、村役場協働の組織づくりとその運営</p> <p>土佐MBA等を活用した、新たな人材の発掘と育成</p>						
<p>地域資源を活用した産業おこし</p> <p>魚梁瀬50年記念行事を契機とした地域活性化の取組</p> <p>観光資源の磨き上げと新たな素材発掘</p> <p>農業・林産等の資源の有効活用に向けた検討 (資源のリスタップ)</p> <p>・事業化検討 (人材の確保・育成、視察研修) ・事業の試行による課題抽出・改善</p> <p>事業計画策定</p> <p>事業の本格実施</p>				<p>魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化</p> <p>山村留学の多様な受け入れ方法等の検討及び情報発信</p> <p>学校・地域と連携した山村留学の実施・移住促進</p>		
<p>魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化</p> <p>山村留学の多様な受け入れ方法等の検討及び情報発信</p> <p>学校・地域と連携した山村留学の実施・移住促進</p>						

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>32 集落活動センター「げいせい」を拠点とした“小さくてももっと元気で輝くむら”づくり</p> <p>《芸西村》</p>	<p>村内で活躍する住民が集落活動センターを中心に集結し、村産品の加工品づくりや磨き上げ、観光資源の発掘や活用等に取り組むことにより、村の強みを活かし、地域活性化を図る。</p>	<p>・芸西村 ・芸西村集落活動センター推進協議会</p>	<p>アクションプランの取組開始：H28</p> <p>【運営主体の取組】 ・集落支援員導入（H27） ・芸西村集落活動センター推進協議会設立（H27） ・集落活動センター「げいせい」開所（H27） ・事務所開設（H28） ・定例会・部会の開催（H28～）</p> <p>【外部人材の導入】 ・集落活動センター推進アドバイザー制度の活用（H28）</p> <p>◆定例会・部会の開催により、地域の意見や課題の抽出が行われ、新規事業として耕作放棄地のサトウキビ栽培と住民の集いの場づくりの取組が始まった。また、地域住民の取組への参加意識も醸成されつつある。</p>	<p>・集落活動センターの円滑な運営の継続</p> <p>・地域住民の参画</p>	<p>◆地域情報の発信</p> <p>◆移住・定住サポート</p> <p>◆特産品づくりと外商活動</p> <p>◆生きがいづくりと生活支援</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
地域情報の発信					→	サトウキビ収穫量 (H27:0t)	5t
PR方法検討	PRの実施						
村内外のイベントへの出展・イベントの企画運営							
移住・定住サポート					→	移住世帯数 (H24~27:3世帯)	5世帯 (H28~31累計)
空き家掘り起こし							
移住相談会等への参加・情報発信							
特産品づくりと外商活動					→		
伝統作物(サトウキビ)の生産・販売							
加工施設の検討	加工施設の建設・運営・特産品開発						
外商活動							
生きがいづくりと生活支援					→		
調査・内容検討							
活動の展開							